

砂糖とソルビトール等との混合品（調整品）の分離技術の開発に向けた調査研究

1 中核機関・研究総括者

株式会社富士経済 田中 秀典

2 研究期間

2005 年度（1 年間）

3 研究目的

砂糖とソルビトール等との混合品である加糖調製品については、砂糖と比較して関税等の水準が低く、輸入量が増加していることから、砂糖の需要量が減少し、てん菜・さとうきび生産者及び国内産糖企業の経営の安定を図る糖価調整制度の安定的運用に支障を来している。

このため、砂糖とソルビトール等に分離可能な加糖調製品を分離するための技術もしくは装置等に関する調査研究を行う。

4 研究内容及び実施体制

- ① 分離技術に関する情報の収集（株富士経済）
粉体分離技術シーズに関する情報収集を行う。
- ② 分離精度、技術に係る試験研究の実施（株富士経済、ホソカワミクロン株）
加糖調整品の分離実験が可能な企業に試験研究の協力を得てデータ収集を行う。粉体工学を研究している大学に試験研究の協力を得てデータ収集を行う。
- ③ 実用化製品の製造企業等へのヒアリング調査（株富士経済）
実用化に向けた課題、実用化された場合のユーザー負担コスト等の調査を行い、実用可能性の分析を行う。
- ④ 調査結果の分析（兵庫県立大学、株富士経済）
以上の段階を経て収集した調査結果を分析する。

5 目標とする成果

砂糖とソルビトール等に分離可能な加糖調製品の範囲を絞り込むとともに、砂糖とソルビトール等に分離可能な加糖調製品を分離するための技術もしくは装置等を特定することにより、関税等を賦課するための情報提供を行う。

砂糖とソルビトール等との混合品（調整品） の分離技術の開発に向けた調査研究

